



愛隣幼稚園.....

園だより

.....16. 11月号

環のなかにある

週末、近所のスーパーへ行った私はキャベツの値段を見て驚愕してしまいました。『¥380!!』一箱の値段ではなく、一個の値段です。その他にもきゅうりは1本¥98、痩せた小さな人参が2本で¥198。他に競争相手のいない地域に1軒のスーパーですから、ちょっと高めかもしれませんが、それにしても高すぎです。運動会の振替休みに出掛けた清里で、地元のおじさんが言っていました。「もうずっとお日様が照らなくてね～。これじゃみんな腐っちゃうんじゃないかって心配してるんだ。」おじさんの心配は的中してしまったようです。

さて、幼稚園の庭にも実のなる木がいくつかあります。私の子どもたちがお世話になった頃もたくさんの実をつけていた柿の木、ちきゅう組の卒業記念樹のみかんの木、くろーば一組が植えてくれた枇杷の木、やまももの木。今年、枇杷とみかんは豊作ですが、やまももはほとんど実をつけず、柿もご覧の通り、ほとんど実をつけませんでした。数えるほどしかない実も、食べ頃と思う日には、見ると半分鳥に食べられています。愛隣の柿は美味しいと、ここのカラスはよくご存知です。そしてきっと今年は、どこも柿が不作なのかもしれません。カラスも必死なのでしょう。初夏に収穫したじゃがいもも不作でした。これから収穫となるさつまいもはどうでしょうか？土の中は分かりませんが葉っぱがこんなに虫に食われているのは、例年にないことです。愛隣の小さな庭の中でもこんなにたくさんのいつもとは違う事が起こり、いつもより実りの少ない年になりそうですから、お山のどんぐりが少なければ熊さんだってえらいことになっているのかもしれません。

私たちは、たくさんの命をいただくことで今日も無事でいられるのですが、ふだんはほとんど意識せずにいます。そして私たちがいただく命を生産することを、人間は全てコントロールすることはできないということも忘れていきます。テレビで台風がきただの、日照不足だのと言っているのもそれが何を意味するのか考えず消費するだけの私たちには、まだ対岸の火事です。しばらくして「キャベツ1個¥380」という現実を目の当たりにして、やっと事態の深刻さに気付くのです。のんびりした話です。そしてまた、いつもの状態に戻れば「命をいただく」なんてことを考えない毎日に戻ってくるのです。人間は長い歴史の中で強大な力を得てきました。科学技術の進歩がそれを支えてきました。全ての命の生きることも死ぬこともその手中に収めたかのような今日です。しかし、神様は気付かせてくださいます。愛隣の小さな庭の変化や、店に並ぶ生鮮食品の価格で。私たちは天も地も制することなどできないのです。私たちができることは神様からいただいた豊かな恵みに感謝し、豊かな恵みを育む大地を大切に守っていくこと、これしかないように思います。キャベツの値段に驚愕した週末、テレビではイエローストーン国立公園で行われた自然環境の再生を試みる壮大な実験を紹介していました。過去に人為的な問題で絶滅してしまったオオカミを再び公園内に戻すことによって、破壊されてしまった自然が復活したという話でした。人間の力では再生の目途が立たなかった自然環境は、オオカミの復活によって生態系のバランスが保たれるようになり、その結果、過去にあった豊かな森が再生されていったのです。人間が命あるものの頂点にいないことを思い知らされます。私たちはこの地球の上に生まれ、共存する命の環の中にいるのです。この環が断ち切られれば命のバランスは崩れていきます。人は知恵ある者としてこのことを自覚したいと思います。知恵と力はこのバランスを保ち環を繋ぐ為に使われなければならない。大きな命の環の中にあって、今日も命をいただき、命あることに感謝することを忘れずにいたいと思います。